



岡山大学理学部

同窓会会報

School of Science Okayama University Alumni Association



2026.10
第15号

【会則】 平成24年3月 5日 制定
平成30年7月25日 改正
令和6年8月1日 改正

(名称) 第1条 本会は、岡山大学理学部同窓会（以下、「本会」という。）と称する。
(目的) 第2条 本会は、会員相互の親睦・情報交換、並びに資質の向上を図り、併せて岡山大学理学部及びそれに関連する研究科の発展を目的とする。

(事業) 第3条 本会は、目的を達成するために次の活動を行う。
一 総会の開催
二 会報の発行
三 会員名簿の管理
四 その他、本会の目的達成に必要な事項
(構成) 第4条 本会は、所在地を岡山市北区津島中三丁目1ー1岡山大学理学部内に置く。
2 本会は、事務局を設け、事務職員を置くことができる。
3 本会は、必要な学科並びに地域に支部を設置することができる。支部には代表者を置く。
(学科同窓会) 第5条 本会は、学科及びそれに関連する大学院卒業生で別に組織する同窓会（以下「学科同窓会」という。）と連携協力を得て、本会の事業を行う。

(会員) 第6条 本会は、次の項に掲げる会員をもって構成する。
一 正会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の卒業生・修了生
二 学生会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の在学生
学生会員は、卒業することにより正会員となる。
三 特別会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の教員及び技術職員並びに事務（室）長として在職した、又は在職する者
その他、理事会において入会を認めた者
2 本会の会員は、氏名・住所・電話番号・勤務先・メールアドレスなどの変更が生じたときは、本会事務局に届け出るものとする。
(学科同窓会の会員) 第6条の2 学科同窓会の会員は、本会の正会員に準じて取り扱うこととし、その取扱いは別に定める。

(役員) 第7条 本会に、次の役員を置く。
一 会長 1名
二 副会長 1名
三 理事 若干名
四 監事 2名
第8条 役員の任期は次のとおり定める。
一 会長は、会務を総括する。
二 副会長は、会長を補佐し、事務局を統括する。
三 理事は、会展に協力し、会務を執行する。
四 理事は、各学科会員を代表し、本会と各学科会員との相互連絡にあたる。
五 理事は、本会の目的達成に必要な役務（総務・会計・広報・名簿管理等）を分担する。
六 監事は、会計及び会務を監査する。

第9条 役員の選出方法は次のとおり定める。
一 会長は、会員の中から推薦するものとし、理事会で選出する。
二 副会長は、岡山大学理学部長をもってあてることとする。
三 理事は、学科毎に学科長を含めて2名程度とし、理事会で選出する。
四 監事は、理事会で選出する。
五 会長、副会長、理事、監事の任期は2年とし、再任を妨げない。
(会議) 第10条 会議は、総会、理事会及び役員会とする。
第11条 総会は、本会の重要事項について審議が必要な場合において、理事会の議を経て、会長がこれを召集する。
第12条 理事会は、会長、副会長、理事及び監事を以って組織し、会長がこれを召集する。

2 理事会の議長は会長または副会長がたる。
3 理事会は、年1回以上開催し、次の各号に掲げる事項を審議する。
一 会則及び施行細則の改正に関する事項。
二 会務及び業務報告に関する事項。
三 決算承認及び予算の議決に関する事項。
四 その他、役員会において必要と認めた事項。
4 理事会は役員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。
第13条 役員会は、会長・副会長で構成する。
2 役員会は、本会の会務の企画又は執行の必要に応じて随時開催し、協議の結果は理事会に提案並びに報告をする。
(支部の地域) 第14条 本会の目的を達成するため、理事会の承認を得て、地域ごとに支部を置くことができる。
(支部組織) 第15条 支部は、その地域内の会員をもって組織する。
(支部地域変更) 第16条 支部は、理事会の承認を得て、地域を変更することができる。
(支部の役員) 第17条 支部に役員として、代表幹事1人及び幹事若干人を置く。
2 支部の役員は、当該支部の会員の中から選出する。
3 代表幹事は、支部を代表し、支部の会務を執行する。
4 幹事は、代表幹事を補佐する。
(支部の会則) 第18条 各支部は、当該支部に関する会則を定めることができる。
2 支部がその会則を定めた場合は、理事会に報告するものとする。
(支部幹事会) 第19条 各支部にそれぞれ支部幹事会を置き、代表幹事及び幹事をもって構成する。
2 支部幹事会は、必要に応じ、代表幹事が招集し、代表幹事がその議長となる。
3 支部幹事会は、支部の運営に関する事項を協議する。
(支部の経費) 第20条 支部の経費は、当該支部所属会員の負担とする。
2 本会は、支部に補助金を交付することができる。
(会計) 第21条 本会の運営に要する経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてて。
第22条 本会の会費を次のとおり定める。
一 正会員は、入会金（終身会費）5,000円を納付するものとする。ただし、既に学生会員である者の入会金は不要とする。
二 学生会員は、入会金（終身会費）5,000円を入学時に納付するものとする。
三 既に学科同窓会の会員であって本会に入会する者は、その入会金を免除する。
四 会費の納付方法については、別に定める。

第23条 本会の運営に要する経費にあてため、会員及び学科同窓会等から寄付金を受領することができる。
第24条 会計担当理事は毎年、理事会或いは会報で本会の会計を報告する。
第25条 監事は、毎年本会の会計を監査する。
第26条 会計担当理事は、正会員の要求があれば会計帳簿を随時公開しなければならない。
第27条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
(雑則) 第28条 この会則に定めるほか、本会に関して必要な事項は、理事会の議を経て別に定めることができる。
2 理事会は、会則等重要な規定の改正を会報により報告するものとする。

(附則) 1 この会則は、平成24年3月5日から施行する。
2 この会則は、平成24年3月卒業生から適用する。
3 会計管理は、事務局が行い代表者は事務局長とする。
(附則) 1 この会則は、平成30年7月25日から施行し、平成30年4月1日から適用する。
(附則) 1 この会則は、令和6年8月1日から施行する。

岡山大学理学部同窓会 別表

名 称	地域名	設立年月日	代表者	連絡先
岡山大学理学部同窓会	本部	平成 24 年 3 月 5 日	会長 富岡 憲治	理学部事務室 086-251-7764
岡山大学理学部同窓会 関東支部	関東地区 (東京、千葉、神奈川、埼玉、 栃木、群馬、及びその周辺)	平成 30 年 4 月 1 日	代表幹事 田中 徹	田中 徹 t.tanaka@alalis.jp

岡山大学理学部同窓会事務局

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中三丁目1番1号 岡山大学理学部内
TEL:086-251-7764 FAX:086-251-7777
E-mail:alumni-sci@okayama-u.ac.jp

岡山大学理学部同窓会 HP

令和 7 年度 岡山大学理学部同窓会会計報告

(単位：円)

収 入		支 出	
摘 要	金 額	摘 要	金 額
1 前年度繰越	3,583,806	1 事業費	448,410
(1) 普通預金	3,583,806	(1) 理学部同窓会実施事業	311,210
(2) 小口現金	0	会報製作費 1,500 部	140,250
		製作費振込手数料	440
		同窓会 封筒	0
		封筒振込手数料	0
		会報送料 1,218 通	170,520
		ホームカミングデー	0

2 会費	795,000	(2) 全学交流行事支援事業	0
(1) R7 年度入学生	790,000	(3) 就職活動支援事業	0
@5,000 × 106 名	530,000	(4) 同窓生進学支援事業	0
@5,000 × 52 名	260,000		
(2) R6 年度以前入学生	5,000	(5) 同窓生関東支部総会旅費	137,200
@5,000 × 1 名	5,000	理学部同窓会長	37,800
		Alumni 理事	49,700
		学部長	49,700

3 預金利息	5,243	2 事務費	0
4 月 1 日	1,788	3 翌年度繰越	3,935,639
10 月 1 日	3,455	(1) 普通預金	3,935,639
		(2) 小口現金	0

合 計	4,384,049	合 計	4,384,049
-----	-----------	-----	-----------

■編集後記 理学部同窓会関東支部の新体制に栄あれ

今夏も猛暑の東京で岡山大学 Alumni(全学同窓会) 東京支部と理学部同窓会関東支部の総会が開催され、多くの卒業生と親睦と交流の機会を持った。理学部同窓会関東支部は 2018 年設立以来、東京・関東圏で活躍の理学部同窓生の交流と親睦の拠点として着実に発展を続けてきた。今春、活動基盤の定着を契機として代表幹事が交代した。新体制のもとで同窓会・交流会が開催され、世代を超えた同窓生が集い活発な交流がもたれた。関東支部設立から今日まで多大な尽力を頂いた米森重直前代表幹事に感謝するとともに、田中徹新代表幹事の下で益々の発展を願うものである。

岡山大学 Alumni (全学同窓会) 副会長 川 本 平 山

お問い合わせ先

岡山大学理学部同窓会事務局

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中三丁目1番1号 岡山大学理学部内
TEL:086-251-7764 FAX:086-251-7777
E-mail:alumni-sci@okayama-u.ac.jp

岡山大学理学部同窓会 HP

理学部同窓会の力を未来へつなぐために

岡山大学理学部同窓会の活動を日頃より支えてくださっている皆様に、心より御礼申し上げます。理学部は創立以来、数学・物理・化学・生物・地球科学の五学科を中心に、研究と教育を着実に積み重ねてきました。各分野で活躍される同窓生の皆様の姿は、理学部が長年育んできた学問の力の証であり、私たちの大きな誇りです。

今夏はサッカーのワールドカップが開催され、連日熱戦が繰り広げられました。日本代表はブラジルとの決勝トーナメント1回戦で、終了間際の失点により惜敗しました。他の試合でも、ロスタイムの一瞬の判断やPKの成否が勝敗を左右する場面が多く見られました。どの国のチームにおいても、選手同士の連携と信頼が結果を大きく左右することを改めて感じさせられました。

同窓会は、こうした「力を合わせる姿勢」を大切にしながら、母校とのつながりを深める役割を担っています。講演会や交流会、在学生への支援事業などを通じて、理学部の現在を共有し、若い世代を励ます場として機能してきました。大学を取り巻く環境が変化する中でも、同窓生の知恵と経験は、理学部の未来を支える大きな力となっています。

これからも皆様とともに、理学部のさらなる発展を応援し、同窓会活動をより充実させていきたいと考えております。引き続き、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理学教育の幹

昨今話題のAIに「岡大理学部の魅力を簡潔に」とお願いしたところ、100年を超える歴史、5学科による本格的理学教育、世界最先端の研究、などなど、期待した通りのキーワードが散りばめられた文章を提示してくれました。さすが岡大理学部は世の中に正しく認知されている、と喜んだのも束の間、関連するページとして昨年度の理学部のパンフレットがトップヒットしており、どうも、そこに私が記した理学部の紹介文に基づいたものだったようです。私の好みに合うのも当たり前。合点がいったと同時に、AIは所詮文言を組み合わせる作業をしてくれるサーチツールにすぎないことも肌で理解できました。

こうして、同窓会報への寄稿をAIに任せてしまおうという目論見は脆くも潰えたのですが、一方で、この、ある意味賢いツールを自分の武器として使う力がこれからの社会では求められるのだと再認識しました。

理学部での教育は知識の詰め込みではありません。いかに頭を振り絞り、得た知識を活用するか。これが我々の求める理学教育です。その中には「今使えるツールを最大限利用する」ことも含まれます。長い歴史の中で、枝葉末節は時代と共に変わっても、その幹にあるのは「いかに真理を見極めるか」です。かつて卒業生の皆さんが追い求めてきたものを、現在の学生も、手法は多少違っても、同じように追い求めます。理学部における教育は連綿とつながり、継承されていきます。理学部スタッフは常に時代の最先端を意識しつつ、この「幹」を大切に育てていきたいと考えています。卒業生の皆様にも、皆様と同じ「幹」を現役学生に感じていただければ幸いです。

▼活動報告

2026.7.22 理事会開催
2026.7.11 理学部同窓会関東支部総会・交流会開催
2025.11.1 理学部同窓会を開催
2025.7.30 理事会開催
2025.7.19 理学部同窓会関東支部総会・交流会開催
2024.11.2 理学部同窓会を開催
2024.8.1 理事会開催
2024.7.21 理学部同窓会関東支部総会・交流会開催
2023.10.21 理事部同窓会を開催
2023.7.28 理事会開催
2023.7.22 理学部同窓会関東支部総会開催
2023.5.15～5.19 理事会（メール会議）開催
2022.12.19～12.23 理事会（メール会議）開催
2022.10.22 理学部同窓会を開催
2022.9.27～9.30 理事会（メール会議）開催

2022.7.23 理学部同窓会関東支部総会開催
2021.10.8～10.12 理事会（メール会議）開催
2021.9.29～10.4 理事会（メール会議）開催
2020.8.7～8.17 理事会（メール会議）開催
2019.10.26 理学部同窓会を開催
2019.9.4 理事会開催
2019.7.27 理学部同窓会関東支部総会を開催
2019.5.22 理学部同窓会関東支部交流会を開催
2018.10.20 理学部同窓会を開催
2018.7.28 岡山大学 Alumni (全学同窓会)
東京支部、各学部支部と合同総会・交流会
2018.7.25 理事会開催
2018.4.1 理学部同窓会関東支部設立
2017.10.21 理学部同窓会を開催
2017.7.26 理事会開催

2016.10.22 理学部同窓会を開催
2016.9.7 理事会開催
2015.10.17 理学部同窓会を開催
2015.9.2 理事会開催
2014.11.20 理事会開催
2014.10.18 理学部同窓会を開催
2014.8.21 理事会開催
2013.10.19 理学部同窓会を開催
2013.9.4 理事会開催
2013.3.6 理事会開催
2012.10.20 設立記念総会並びに懇親会開催
2012.7.4 理事会開催
2012.5.25 ホームページを公開
2012.3.5 岡山大学理学部同窓会設立



岡山大学理学部同窓会 会長
(昭和 53 年理学部生物学科卒業)
富岡 憲治



岡山大学理学部長
阿保 達彦



数学科 Department of Mathematics



4月の入学式においては、新1年生と編入学した新3年生のみなさまと顔を合わせることができました。凛々しい姿の学生諸君が数学科においてこれから大きく成長していくのを見ることは楽しみです。

また卒業生の方々が、企業における技術者や高校教諭として、研究室訪問してくれることがあります。かつて学生だった方々が社会人となり立派に活躍しているのを知ることは喜ばしいかぎりです。

理学部数学科においては、2025年10月に小野舞子先生が新たにご着任され、2026年4月に高瀬裕志先生が講師としてご着任されました。新進気鋭の若手数学者である岡先生のご活躍が期待されます。

また2025年9月に私は日本数学会解析学賞を受賞しました。解析学の発展に私も微力ながら寄与できたことを報告いたします。



数学科長 谷口 雅治



早いもので卒業から10年以上が経ち、現在は岡山県の公立高校数学教員として教壇に立っております。学生時代、谷口雅治教授のもと解析学に没頭した時間や、昼休みに友人と学食へ向かった日々など、津島キャンパスでの思い出は尽きません。今でも大学を訪れるたび当時の記憶が鮮やかによみがえり、教員としての原点を思い出します。同窓の皆様の益々のご健勝と、岡山大学理学部の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。



山片 大典
(2015 年 3 月 理学部数学科卒業)

化学科 Department of Chemistry



化学科は、物理化学7名、有機化学5名、無機・分析化学5名の教員が各分野で最先端研究に日々取り組んでいます。2025年10月には理論計算化学研究室に永井哲郎准教授が着任し、その後、2026年4月には理論

物理化学研究室に岡本隆一准教授が着任し化学科にフレッシュな風を吹き込んでくれています。また、2026年3月には田中健太助教が優れた研究業績が認められ研究准教授の称号を授与されました。国際的には、2025

年にチュロンコン大学（タイ）で、4大学（国立台湾大学、チュロンコン大学、岡山大学、広島大学）合同国際ワークショップが開催され、化学科からも2名の学生が参加し交流を深めました。2026年2月に開催した

Chemistry Frontiers Dayには化学科3、4年生と大学院生の希望者が参加し、11名の卒業生の最近の活躍ぶりを知る機会を得ました。先輩諸氏の活躍は在校生に大きな刺激になったと思います。化学科で創出される

基礎研究の成果は社会を支える土台になることを忘れずに、これからも研究と化学者の育成に全力を尽くします。



化学科長 大久保 貴広

物理学科 Department of Physics



物理学科では、基礎から応用まで幅広い研究と教育をさらに発展させ、変化の激しい時代に対応できる人材を育成することを目指して、教職員・学生・一同日々努力を重ねています。

2026年3月には、長年にわたり物理学科の教育・研究に多大なご貢献をされた野上由夫教授、池田直教授が定年退職されました。一方で、新たな仲間として、2025年4月に大槻太毅准教授、同年10月に片山尚幸教授、安達俊介准教授、2026年4月には小島慶太助教が着任し、学科に新しい活力をもたらしています。

また、J-PEAKS事業の支援を受け、強磁場超伝導マグネットや断熱消磁冷凍機（ADR）など最先端の研究設備の整備も進んでいます。これらを活用して新たな研究分野にも積極的に挑戦し、教育・研究のさらなる発展を通じて、魅力ある物理学科を築いてまいります。理学部同窓会の皆様には、今後とも温かいご支援とご声援を賜りますようお願い申し上げます。



物理学科長 吉村 浩司



私は高専卒業後に3年次編入生として物理学科に進学しました。4年次に吉村教授の主宰する研究室に配属され、当時からSPRING-8でのトリウム



229原子核アイソマー状態の探索に携わりました。大学院ではレーザーを使った実験に携わりつつ、アイソマー状態のエネルギー・寿命決定とクエンチ機構の発見で博士号を取得しました。現在は大阪大学 理学研究科に移り、全固体原子核時計を用いた基礎物理探索に向けて固体標的の開発を目指しています。

岡井 晃一
(2016 年 3 月 理学部物理学科卒業)

生物学科 Department of Biology



生物学科は国際的な激動期の中でしっかりと地に足をつけた活動に邁進しております。2026年3月には長年生物学科に尽力いただいております中堀清助教がご退職されました。今年度からは新しくウーマンテニユアトラック助教として大藪助教が就任しています。大藪助教はアホロートル（ウー

パールーパー）の皮膚コラーゲンの形跡機構に関する研究を展開しており、高い研究活性を持っており、専門分野を生かした研究活動によって生物学科にますますの発展をもたらしてくるものと期待されます。在学生も積極的に活動し、教員とともに活力ある生物学科を支えてくれています。活動の詳細等はHP等をご高覧いただければ幸いです。



生物学科長 佐藤 伸



私は2020年に生物学科に入学、卒業後は博士前期課程に進み、2026年に卒業しました。在学中は器官再構築研究室でのウーパールーパーの腱再生の研究や、バスケ部での活動に励みました。部活も全力で取り組みながら、研究室にも毎日通い、岡山大学では充実した毎日を送れたと思います。大学院を卒業した現在は研究から離れ、化学系の営業職として働いていますが、研究室で学んだ考え方などは活きていると感じます。



天田 龍尚
(2024 年 3 月 理学部生物学科卒業)

地球科学科 Department of Earth Sciences



地球科学科では、2026年度は新入生26名、3年次編入生1名を迎えました。今年の新入生合宿は、まず奈義ビカリアミュージアムにて化石発掘体験をしました。宿泊先の西はりま天文台では全員で手分けして、カレー作り、大鍋での炊飯を行い、無事に夕食にありつけました。夜は、大迫力の口径2 mのなゆた望遠鏡で、土星や二重星などを観測しました。幸い天候に恵まれ、春の夜空の天体ショーを楽しみました。

教員の動向としては、2026年3月に浦川啓教授（地球惑星内部物理学分野）が定年退職されました。2026年4月には、梶川義幸教授（大気科学分野）と漢那直也准教授（地球化学分野）が着任されました。元気な若い新教員2名を迎え、地球科学科スタッフ一同、学生と共により一層学科の発展に努めていきます。今後とも当学科へのご支援をよろしくお願い申し上げます。



地球科学科長 寺崎 英紀



私は2025年3月に地球科学科を卒業し、現在は博士前期課程学生として引き続き地球惑星内部物理学研究室に在籍しており、火星の内部構造について日々研究



を行っています。高温高圧実験を通して、火星深部での鉱物の挙動や内部進化の解明に取り組んでいます。研究では試行錯誤の連続ですが、新しい発見につながる瞬間に大きなやりがいを感じています。学部時代に培った経験を土台に、今後も研究に励むとともに、地球惑星科学の発展に少しでも貢献できるよう努力していきたいと思います。

紙本 航希
(2025 年 3 月 理学部地球科学科卒業)

附属臨海実験所 Marine Institute



ホウキムシ *Phoronis australis*: 等虫動物門に属する海産動物で、キチン質の硬骨を作って砂中に生息し、触手冠と呼ばれる繊毛の生えた触手を砂上に伸ばして、有機物を濾し取って摂食します。昨年、牛窓産ホウキムシの染色体レベルのゲノムが解読され、触手冠をもつホウキムシ（等虫動物門）、シャミセンガイ（腕足動物門）、コケムシ（外肛動物門）が共通祖先に由来する単系統群であることが示されました。

今年度の附属臨海実験所は、教授3名、助教5名、学振PD2名、技術・事務職員6名、学生13名と、過去最大の体制となりました。研究対象は海産無脊椎動物からメダカなどの小型魚類、岡山県の淡水魚まで幅広く、進化・発生・行動・生態に関する研究が、飼育設備やイメージング、ゲノム・分子生物学機器を活用して進められています。学内外・国内外から多くの研究者や学生が利用し、国際学会のシンポジウムや大型プロジェクトの領域会議も開催されるなど、活発な研究交流の場となっています。臨海実習では、動物採集や系統分類、発生観察に加え、環境DNA解析による生息沿岸の生物相調査も実施しました。今後も最先端の研究と、それを基盤とした教育・共同利用の充実



所長 濱田 麻友子

附属界面科学研究施設 Laboratory for Surface Science



昨年度初め、薄膜物性学部門（横谷、村岡、大槻(太)）と粉体物性学部門（山方、後藤）の新体制のもと、教育研究活動がスタートしました。薄膜物性学部門では、機能性物質の合成および電子状態解析の研究を進めており、高性能熱電材料のメカニズムの解明の研究やボウ素ドーパダイヤモンド中の水素の可視化などで新しい成果をあげています。粉体物性学部門では、太陽光を用いた水からの水素製造（光触媒）や低コスト有機太陽電池、発光素子の開発が精力的に行われ、可視光応答型光触媒の高活性化と長寿命化に関する研究発表は注目を集めています。さらに、グラフェンやトポロジカルに非自明な物質の量子物性に関する研究も進展しています。



施設長 横谷 尚睦

異分野基礎科学研究所 Research Institute for Interdisciplinary Science



共創イノベーションラボKIBINOVE棟に導入されたクライオトモグラフィー装置Arctis

異分野基礎科学研究所では、J-PEAKS事業を核として研究環境の整備と研究力強化を着実に進めています。KIBINOVE棟に導入されたクライオトモグラフィー装置Arctisとクライオ電子顕微鏡Kriosを活用した構造生命科学研究が本格的に展開されるとともに、20T強磁場施設の整備も進んでいます。これらの最先端研究基盤を活かし、構造生命科学、超伝導・材料科学、有機エレクトロニクス、量子科学、理論化学など、異分野融合による研究が一層加速しています。また、国内外の大学・研究機関との共同研究や若手研究者の育成にも積極的に取り組み、国際的な研究拠点としての機能強化を図っています。



今後とも研究成果の創出と人材育成を通じて、学術の発展に貢献してまいります。同窓会の皆様には、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

所長 西原 康師